



気候変動に対応した作物栽培技術の現状と展望

平成25年12月13日(金) 13:00~16:30

会場 東京大学弥生講堂セイホクギャラリー

主催 日本学術会議農学委員会農学分科会、同 育種学分科会、同 農業生産環境工学分科会

共催 日本作物学会、園芸学会、日本植物病理学会、日本育種学会、日本農業工学会、日本農業気象学会

2013年のIPCC5次報告によれば、気候変動の原因の95%は人間活動にあり、現在の化石エネルギーに依存した経済成長が続けば、今世紀末には世界の気温は3.7℃上昇し、海面は約1m上昇すると予想されている。地球規模の温暖化によって、乾燥化や塩類集積による耕作可能地の減少、作物の栽培適地の移動、新規病虫害の発生など、近未来の人類の生存にとって大きな負荷が生じることが懸念される。本シンポジウムでは、温暖化などの気候変動が作物栽培に及ぼす影響の実態とそれに対応した研究・技術開発について紹介し、今後の方向を参加者とともに議論する。

プログラム

13:00 開会の辞 趣旨説明

大杉立** (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

講演

13:10 温暖化に対応したイネの栽培技術改変

森田敏 (農研機構九州・沖縄農業総合研究センター)

13:50 園芸作物栽培に及ぼす気候変動の影響と対策—果樹栽培を中心として—

米森敬三** (京都大学農学研究科教授)

14:50 作物病害における温暖化の影響と対策技術

白石友紀** (岡山県農林水産総合センター生物科学研究所長)

15:30 画像情報等の作物生産における温暖化対応技術への応用

大政謙次* (東京大学農学生命科学研究科教授)

総合討論

16:10 (司会) 国分牧衛** (東北大学農学研究科教授)

(コメンテーター) 奥野員敏**

(筑波大学北アフリカ研究センターチームリーダー)

16:30 閉会の辞

矢澤進* (京都学園大学教授)

*日本学術会議会員、**同 連携会員、***主催分科会委員

参加費無料

問い合わせ先

日本学術会議農学委員会農学分科会 幹事 井上真理** (九州大学大学院農学研究院)
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院農学研究院
TEL: 092-642-2825 FAX: 092-642-2824 E-mail: mariino@agr.kyushu-u.ac.jp

